

研究ノート

フィリピン・セブ島北部農村の 都市化と内発的発展の可能性

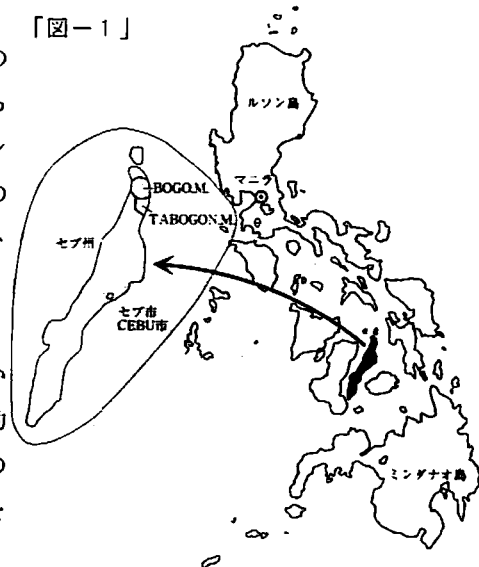
徳野貞雄

1 調査の概要

本報告は、JICA フィリピン・セブ州地方部活性化プロジェクト (Cebu Socio Economic Empowerment and Development Project. CEBU SEED と略称) の要請に従い、セブ州北部の BOGO Municipality (自治体・町) と TABOGON Municipality における、地域住民の生活構造を軸としたサトウキビ・コーン地帯の農村社会調査の報告書である。なお、セブ州はセブ島だけで形成されている。調査期間は2000年3月20日より4月28日までの40日間である。現地の農家まで赴き、直接イ

フィリピンとセブ島

「図-1」



ンタビュー方式で行った。また、
現地の町長 (Mayor) や役場の関係職員からの聞き取り調査も行っている。なお、地域のサンプリングは、JICA の CEBU SEED の現地のフィールド・アシスタントに選定を頼んだ。「図-1」参照

(1) 調査のねらい

本調査は、JICA の活動において、従来からの技術支援や経済的支援にとどまることなく、現地の住民自身が主体的に内発的発展を遂げるための手法を探るために、

社会学的アプローチを用いて調査・検討を行うものである。^(註1)すなわち、家族・親族のあり方や人々の行動様式さらに単に農業の現状だけでなく、農村の人々の都市との関係や起業的行動者の社会的性格などに着目した社会学的アプローチを、CEBU 島北部の農村地帯の地域振興対策に試みてみることである。

(2) 調査項目

調査項目は、①家族員の性別・年齢・学歴・居住地・家族員数・家族形態・居住形態などの属性や家族構成を軸とした生活構造の項目。②農家の農業・仕事・所得など経済構造の項目。③CEBU 市への移動・出稼ぎなど都市との関係についての項目。④集落範囲や共同労働集団など地域構造や地域組織に関する項目。⑤生活向上や産業振興に関する項目。⑥その他、近代化に関する項目。以上の6項目をベースに調査を行った。

(3) 調査地および調査地の概要

CEBU 州北部の BOGO M. と TABOGON.M. は CEBU 島の中心地である CEBU 市から北へ 90km から 100km のところに位置する。CEBU 市から車で 2 時間強かかる。道路は、舗装された国道が BOGO まで延びている。バスもかなり頻繁に走っている。TABOGON には、国道の途中から舗装された県道が町役場のあるところ延びている。舗装道路はこの 2 本である。

①BOGO M. は人口 51,048 人で CEBU 島東北部の中心地 BOGO の町がある。映画館やホテルや公設市場そして Collage（日本の高校から高専のレベル）も 4 つあり、市街地を形成している。港やバス・ターミナルもあり、交通の要所でもある。Municipality（自治体）の階級では第 3 階層に属し、近い将来市へ昇格する予定であると言われている。Mayor（町長）は、CELESTINO A.MARTINEZ 氏で 28 歳（父が有力な政治家）と非常に若い。

BOGO M. の都市部人口は 16,388 人であり、農村部人口は、34,660 人である。市街地を除けば、サトウキビ畑やココナツ畑やコーン畑の農地が広がっている。水田稲作は全くない。統計資料では、BOGO M. の 77.0%（7,488ha）が農地となっている。石灰岩質の石が非常に多く、農耕に適した土地とは言えない。また、乾期の水の確保も難しく稲作は行われていない。それ故、農村部の人々の主食はマイスと言われるコーンを臼で砕いたものである。農地の中でも農耕に

適した部分は、サトウキビのプランテーションとなっているところが多く、コーンや野菜などの生産性はかなり低い。農民といえども、主食を自給できるものは少ない。なお、Sugarcane Woker (サトウキビ労働者) は農民 (Famer) と言うよりも、農作業を行う賃金労働者である。きわめて低賃金である (P30~P40 / 1日・大人)^(注2)。それ故、Sugarcane Woker は、最も階層の低い人たちである。

具体的な調査対象地は、BOGO Municipality の BANBAN Varangay (村) であり、Varangay (村) 内の3つ Sitio (小字) の7個の農家でインタビューをした。

②一方、TABOGON M.は BOGO M.に隣接しているが (BOGO の町からは、未舗装の県道を車で約40分で役場に着く)、人口は27,735人である。市街地は十分形成されておらず、ほとんど農村的景観で覆われている。Municipality (自治体) の階層では第5階層に属し、Mayor (町長) は Roy Ornopia 氏で35歳ぐらいで、この町長も若い。町の統計によると、労働人口は12,730人 (46%)、雇用率92%、うち農業関係70%、非農業関係30%となっている。主な産業は農業 (コーン、サトウキビ、フルーツ、ココナツ、野菜など) と漁業 (きわめて零細) である。農業の状況は、BOGO と大差ない。なお統計では、家族の年収が、町場で平均3,000ペソ、村落で平均2,500ペソとなっている。

Mator の Roy 氏は、この町の最大の課題は、「貧困 (Poverty)」であると言う。仕事がなく、農業と漁業だけでは十分食べられず、都市部との格差が広がっている。かと言って、農業・漁業の発展に特別な具体的アイデアがあるわけでもなく、農家の人のニーズを調べたいと言っていた。現在できることは、子供たちに教育をつけ、HeighSchool (中学校) から Collage に行かせて、技術を身につけさせ都会で働けるようにさせることであると言う。そのために、国や海外からの支援が欲しいとも言っていた。内発的発展より外的援助という気持ちであろう。しかし、町長の考え方を簡単に否定することは出来ないと思う。なお、TABOGON ではサボテンの1種である Maguey (マゲイ) から繊維と取り、ロープや布にする原料生産が行われている。また、LIBJO Varangay (村) では、タイルや工芸品の原材料になる石灰岩の採掘と運搬が、

人力で行われている。この Maguey 栽培と石材産業は、今後 JICA の支援事業の対象になると言われている。

TABOGON Municipality での具体的な調査地点は、CAMOBOAN・SAN ISIDORO・LIBJO・POBLACION の 4 つの Varangay (村) で、9 戸の農家にインタビューを行った。

II 調査の結果

(1) 調査対象農家の家族構成

インタビューをおこなった16戸の家族構成と職業などの諸属性および、他出者の居住地・職業などの一覧表は、「図2-a」～「図2-f」までを末尾に記載した。なお、紙数の関係上6戸分にとどめている。次に、16戸の農家の同居世帯人数は「図-3」のごとく、2人世帯が5戸、3人世帯が6戸と小規模世帯が意外と多い。7人から10人の中規模世帯が5戸となっているが、11人以上の大規模世帯はない。またこの世帯の家族類型は、夫婦と未婚の子女から形成される【核家族】類型が10戸と最も多く、ついで【夫婦二人家族】が4戸となっている。後は、三世代同居の【直系家族】が1戸、曾孫と同居している老女の【欠損家族】が1戸である。

この農家世帯での世帯員数の小規模化現象は、近年急速に進んできた農村社会に変化の如述に表すものと考えられる。元々、子供が多くかつ家屋の狭さから、結婚した子供は近接別居をする形で【核家族形態】が一般的であったと考えられる。この形態としての核家族は変わらない。しかし近年、子供たちの多くがCEBU市など都会に出ていくものが多くなり、近接別居が急速に減少してきているようだ。近接別居は4戸しかなく、【夫婦二人世帯】4戸のうち2戸の子供が近接別居、2戸の子供が遠距離別居である。また、小規模な核家族型世帯でも、同居している下の子供がCEBU市などに出ていくと、すぐに遠距離別居型の夫婦二人世帯になる農家が2戸ある。そして、この遠距離別居型の家族形態は、所得や経済的階層の高い世帯に顕著に現れている。問題なのは、今後この傾向が所得階層の高いものに限られず、他の農家にも拡大していくと予測されることである。

図-3 農家家族の諸属性

人数	同居世帯員数	子供の数	他出者数	近隣別居	家族類型
0人			3戸		核家族型
1人		* 1戸	2戸	2戸	10戸
2人	5戸	1戸	3戸		夫婦家族型
3人	2戸	1戸	2戸		4戸
4人	1戸	2戸	1戸	2戸	(近接別居2戸) (遠距離別居2戸)
5人	3戸	3戸	1戸		3世代同居型 1戸
6人		2戸	3戸		※欠損家族
7人	2戸	2戸			1戸
8人	1戸				
9人	1戸	2戸			
10人	1戸				
11人		2戸			
備考	計16戸	計80人	計41人		

(2) 子供の都市指向と農村の空洞化

①. 都市指向の現状

16戸の農家の中で子供が3人以下はわずか3戸である。それも欠損家族の家の子供1人と妻が26歳の家の子供2人を含んでいる。そして子供が9人以上いる家が4戸ある。子供の少ない家では、「パス・コントロールをしたか」と尋ねたが、すべての家庭で否定された。また、「生まれてから死んだ子供はいるか」の問いに、16戸の家庭で1戸だけだったのには驚いた。パス・コントロールはほとんどされていない様子である。それ故、今後とも子供の数は多いものと思われる。

ゼブ北部の農村社会での大きな変化は、子供が成長してからの移動である。16戸トータルで、子供の数は80人である。そのうち41人が他出している。近接別居者4名を除いても37名となり、半数近くは故郷から出ている。「図-4」は、16戸ではなく14戸の世帯者全員の性別年齢別の居住地の集計である。記号の*は親世代であり、○○●は子供の世代である。○は他出者、●は仕送り

をしている子供、●は海外在住者を示している。この図から、まず第1に、0歳から14歳までの子供は、男女とも親と同居している。第2に、15歳から24歳までの子供は、男子は同居5人に対しCEBU市と遠方の双方で9人と、圧倒的に都市に出ていっている。その他出者の内、5名が仕送りをしている。なお、同居3名の◎は、Sugarcane Wokerだけの最貧層の1家族の10代後半の息子たち3名のことであり、都市部からの仕送りとは少し異なる。次に、女性の15歳から24歳の合計13名は、19歳までが同居5名、結婚して近接別居しているものが3名、そしてCEBU市などに他出するものが5名となっている。男子とは異なった形での他出傾向がある。結婚と近場への他出である。第3に、25歳から34歳の年齢層は、男子は同じ傾向が続く。すなわち、Barangay（村）内2名に対し、CEBU市を軸とした他出者が13名と他出先が遠くなっている。女性も同じである。

「図-4」で気が付くことは、15歳以上34歳での男性でかつ有職者であり未婚者は、ほぼ実家に仕送りをしていることである。女性より男性の方が仕送り者は多い。この様に、現在のCEBU州北部の農村では、若年層の都市移動が圧倒的に強くなっている。その結果様々な問題が発生してくる。その第1は、若者の多くが就職先が確定して都会に行くのではなく、CEBU市に行けば何とかなるだろうと言った不安定型移動であることである。これは、フィリピン全体でも言えることだがCEBU島でも同様に、都市部の産業構造などPULL要因が強くないにも関わらず、農村部からのPUSH要因が圧倒的に強いため生じる現象である。現代の発展途上国の大都市は、世界の経済のグローバル化に伴う商業化・サービス化の進展によって、内発的な産業化・工業化が起こっていなくても、周辺農村部との経済格差を一層強くしている。その結果、各地の中心的都市でオーバ・アーバニゼーション（Over Urbanization—過剰都市化）が、発生している。さらに、TABOGON, M.のMayorが言っていたように、子供に教育を付けて都会に出すことが、農村側での主要な政策であり、地域住民の社会意識にもなっている。それ故、都市部に十分な仕事先がなくても、今後も若年層の都市への流入は続き、社会の安定化はしばらく無理であろう。今後、日本からの支援が教育などの近代化政策の支援だけでよいのか問い

図一4 年齢×居住地

		男					女							
		島外遠方	cebu市	町 郡	darangay村	近接別居	同居	年齢	同居	近接別居	Barangay (村)	町 郡	cebu市近郊	遠方海外
子 供 の 数	4							79	*					
								70	*					
								69	*					
								60						
								59	**					
								50	**					
								49	**					
								45	*					
								44	*					
								40	*					
								39	**					
								35						
								34						
								30						
							29							
							25							
							24							
							20							
							19							
							15							
							14							
							11							
							10							
							5							
							4							
							0							
	4	18	14	4	3	3	21(13)		20(14)	3	2	1	9	3
										23	3			
										25 (14)				

*は親世代

直される。

②、農村の空洞化と「仕送り銀行」

若者の都市指向は、農村の人口の空洞化を引き起こし、農村の内発的発展の障害になる可能性も生まれている。「図-5」は、BOGO Municipalityの人口ピラミッドであるが、完全なピラミッド型をしている。しかし、「図-6」は、14戸の在村者全員の人口ピラミッドである。全く形が違う。すなわち、25歳から40歳ぐらいまでの中軸層が完全に欠落している。この状況は、今後の農村の地域振興に大きな障害となると思われる。すなわち、現在でも内発的発展が難しい村落社会を、将来支えていく中心的人材が欠落し続けることになる。

ここで、今回調査の結果を先取りするようだが、農村部で何らかの形で経済的に向上性を見せているのは、SAVING（蓄積）が出来る人であり、かつ都市からのUターン者が多かった。そのことから、都会に出た若者の仕送りについて考えてみたい。フィリピンでは若者が都会に出て実家に仕送りすることは、常態であると言われている。この仕送り文化は、親孝行という社会文化的行動様式の1つであると同時に、貧困からくる現実的経済的要請との結合体でもある。しかし、この行動様式をただ繰り返している限り、若者たちには事業活動の原資もできないし、なによりも事業者としての自律的精神が生まれにくい。

事業を行うということは、人に頼らず自分で事を興し自分で決するということであり、依存的な社会的体質からは生まれにくい(M.Weber)。仕送りという親孝行文化が、若者の経済的挑戦を縛っている。だからといって、現実の仕送りを止めるわけには行かないだろう。だとすれば、両者の機能を満たす社会的システムを考案すればよい。当然仮説的な思考物であるが、「仕送り銀行」みたいなものを考えてみる必要もある。「仕送り銀行」とは、仮に若者が300ペソを親に仕送りをしようとする時、その300ペソを銀行に預ければ、280ペソは仕送りに廻されて、30ペソが貯蓄されると言うシステムである。10ペソの利子が上乘せされる支援システムである。このようにSAVINGを熱心に行う若者に対して経済支援を行うと良い。

以上は、机上の空論かもしれないが、1つの社会学的な考え方に基づいた提言である。特に、事業を興す人間の社会的性格を重視し、それを抽出する方法

図5 BOGO. M. の人口ピラミッド

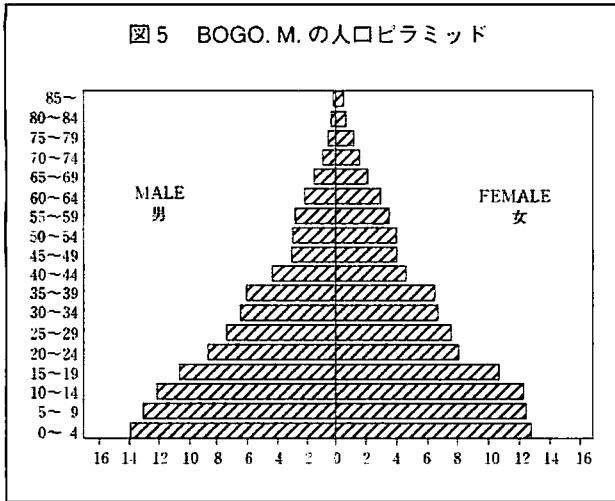
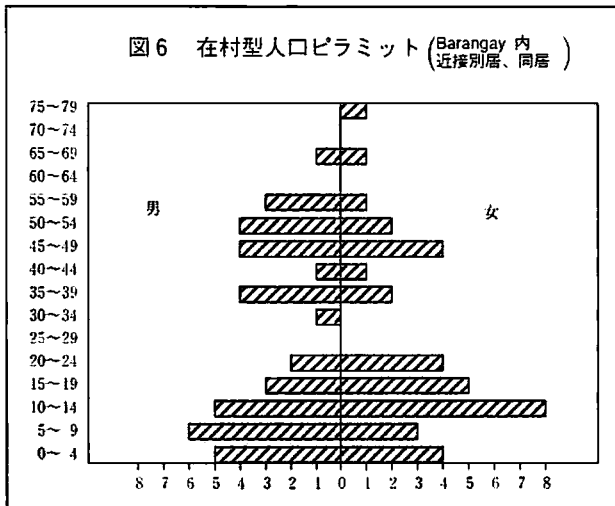


図6 在村型人口ピラミッド (Barangay 内 近接別居、同居)



でもある。

(3) 調査対象農家の経済状況と経済活動

①. 就業類型と階層性

調査農家の社会・経済的状況について述べる前に、社会的統計について述べておきたい。人間に関する統計や調査法が、まだフィリピンでは十分発達していない。すなわち、農地が何 ha あるとか、コーン畑は何 ha かと云った統計はあるが、Sugarcane Wokerは何歳ぐらいの人が多いか、男か女か、既婚者と未婚者の数はどうなっているかと云った人に関連する諸要素のデータは、ほとんどない。今後、このような人間の社会的属性に関連するデータをしっかり取る必要がある。また、そのための調査法も考えておく必要がある。さらに、今回も Sugarcane Woker のいろんな階層の家をサンプルに選んでくれるように頼んだが、フィールド・アシスタントの人達が階層差を調べることの意味が判らないため、少し豊かな家ばかり選定してしまい、調査対象に偏りが生じたことは否めない。このようなことの教育も重要である。

以上のような社会科学的状況であるので、CEBU 島東北部における農家の一般的な就業形態が類型化されていることは、まず期待できない。とすれば、作るより仕方がない。ここで注意すべき事は、まず第1に、農家の就業形態は兼業なども含め多様な就労形態を持っていること。第2に、Sugarcane Woker は農業経営ではなく農作業を通じた賃労働であること。第3に、農地が石灰岩質でやせていて生産性が低く、主食であるコーンなどは1 ha 作っても自給できないことが多い。しかし、自給用のコーン畑を持っているのといないのでは、暮らしの水準にかなりの差を及ぼすことの3点である。

以上のような点に留意しながら、16戸の農家の経済状況を一覧表にしたものが「図-7」である。就業形態・所得・農地所有・農業経営・家畜・仕送りなどの経済的要因と年齢・世帯員数・労働力数および経歴などの社会的要因と接合させたものである。16戸だから個戸1戸ずつ検討することも必要だが、紙数の関係上就業形態を軸に、社会・経済的階級類型として、「図-8」に再編成しておく。

図-7 調査対象農家の経済状況

	年齢	世帯数	労働力	就業形態・所得	農業・家畜	仕送り	特記
BOGO	① 45 45	8人	2人	S・W + Farm (p2.5万)	農地1ha-コーン 自給(半年)	(P1.5万)	長兄、大学
	② 45 39	7人	2人	S・W (2.0万) + 竹筐造り、(p1.6万)	農地1.25haコーン (半年分)	なし 娘にcabuへ	食費 p2.5万/年
	③ 41 40	9人	2人	Farm (2.5万) 起耕+チェンソー	農地-3haコーン 竹壁(半年分)	(P1.8万)	Uターン TV・カラオケ 天水井戸
	④ 52 47	5人	2人	トライシクル (P3万)夫 サリサリストア-(P3万):Far	農地=1ha(自給) 家畜から原畜	アメリカより	バプテスト 村の起業家
	⑤ 36 26	4人	2人	Farm (P3万) +家畜 (P3万)	農地-3ha(タバコ) 牛10、豚6、山羊3	なし	日本の4日クラブ (受身集生)
	⑥ 53 50	7人	3人	S・Wの小頭 (P3万) +家畜	農地0.75ha 牛を増やしたい	P2500	上昇指向
	⑦ 53 51	2人	2人	S・Wのリーダー +Fa (P3.5万)	農地1.25ha(購入)	なし	Su/Do システム
TABOGON	⑧ 57 54	2人	2人	Farm+マゲイン のバイヤー (P7万)	農地-5ha ココナツ (P3万)	なし 子=都会	DOH Uターン マゲイン
	⑨ 59 56	3人	2人	Farm+マゲイン マゲイン新会長	農地-4ha	不明 (可能性)	新農民組織 出資(投資)
	⑩ 66 66	2人	2人	Farmの篤農家雇用	農地1.4haココナツ 息子への相続	P2.5万 (4人)	
	⑪ 56 48	5人	2人	Farm+ (P3万) 家畜	農地-3ha 豚10 (P15万)	P3万 (2人)	甥が社長
	⑫ 78	2人	1人	無職(臨時雇用) (最貧層)	農地なし × 家畜なし	なし	日本人の子
	⑬ 47 50	2人 (5人)	2人 (5人)	コブラ、コーン、コンクリート 砂糖製糖・炭坑	農地あり(P100万)以上 サリサリ→企業化	なし	最大の企業家
	⑭ 42 42	3人	2人	Farm+ (PA2万) Fishing (毎日)	農地・1ha(コーン) 漁業 (P3万)	息子へ送金	漁師
	⑮ 45 39	5人	4人	夫-石堀り (P3万) 妻-10才子=石運び	農地なし ×	なし	重労働
⑯ 48 46	10	6人	夫、妻-長子~四子 S・W only (農地なし × 家狭し	息子 共稼ぎ	貧困層	

図-8 調査対象地の就業類型

類型番号	就業類型	農地	16戸の 農家番号	家畜 Saving	階層
企業家 【1】	事業経営者	Ⓕ	⑬	⑬save	↑高 ↓低
農民 (Farmer)	○【2】 商品Farm+バイヤー（起業家）	Ⓖ	⑧	⑧野羊	
	【3】 商業・サービス業+自給Farm	⑭	④	④家畜 ④save	
	○【4】 商品Farm+マゲイン(加工品)	Ⓕ	⑨、⑩	⑨家畜 ⑨save	
	○【5】 自給Farm+家畜・漁業	Ⓖ	⑤ ⑪、⑫	⑤、⑪家畜 ⑤save	
	【6】 Sugarcane・Wokerの監督+自給Farm	⑭	⑦		
○【7】 S・W+自給Farm+(内職・請負労働)	⑭	①、②、③ ⑥	⑥家畜		
労働者 (Worker)	【8】 石掘り+石運び	×	⑮		
	【9】 Sugarcane Woker Only	×	⑯		
	【10】 無職（臨時雇用）	×	⑰		

②. 貧困層の就業形態

「図-8」の類型番号【8石掘り+石運び】、【9 Sugarcane Woker Only】、【10無職】の3類型は農民ではない。3類型とも農地を持っておらず雇用労働（きわめて低賃金）にたよって生計を立てているため、最貧層を形成する。食えることが精一杯で、子供たちも働かざるを得ず小学校も中退しがちである。【9 Sugarcane Woker Only】の農家番号⑯の家は、夫婦+20歳から14歳までの子供4人、計6人が働いて10人の生計をたてているが、生活は極めて逼迫している。「Sugarcane Wokerをしている限りいいことはない。だから、ほかの仕事に移りたい。しかし、どこにそんな仕事があるのか？」という問いの意味は重い。農地改革問題や政権問題などフィリピンという国の持つ政治・経済・社会的課題を総動員してもすぐには、答えられない課題である。

CEBU 州北部では【9 Sugarcane Woker Only】の就学形態の者も多く、地域の重要課題であることは明白であるが、具体的対策が見えないのが現実である。その理由の1つは、絶対的貧困に近いため、彼自身が自己の将来に向けて投資する余裕がないことと、諦観的世界の存在である。言いにくいだが、CEBU 島北部の農村の内発的振興の担い手として期待することは、現時点では出来ない。

【8 石掘り+石運び】は言うまでもなく、重労働であり危険も伴っている。この重労働と危険を、援助によって技術的に解消することは難しくない。しかし、雇用者を減少させず、さらに地域社会の統合を解体させずに改革するには注意が必要である。特に、原材料の掘り出し・運搬だけの単純鉱業的な産業形態ではなく、加工から第二次製品の販売ぐらいまでのマニファクチャ（工場制手工業制）を目指すべきであらう。この事業組織や社会システム作りの方が大変である。

③. Farmer の発展形態

農業者 (Farmer) に関しては、「図-8」では、【7 Sugercane Woker + 自給 Farm】から【2 商品的 Farm + バイヤー】の6つの類型を示しているが、基本的には○の付いている【7】【5】【4】および【2】の類型に集約することが出来る。農業は自給的 Farm と商品的 Farm に大きく分かれる。次に、農業を土台として、どのような起業化が可能なのかを見てみる。それ故、この基本類型は【7】→【5】→【4】→【2】と言う形で経済活動の発展的段階を示すものでもある。

まず【7 Sugercane Woker + 自給的 Farm + (竹加工・請負耕作)】①②③⑥は、自給用農地を持ちながらも、生計の現金収入部門は Sugarcane Worker の賃労働に頼っている。自給用農地を持たない Sugacane Woker Only と比べると、コーンの自給部分はかなり生活の足しになっており重要である。とは言え、暮らしは、子供を学校にやればカツカツであらう。足りない部分は、竹壁細工や請負耕作などの賃労働でまかなっている。貧困層ではあるが、向上心も持ち得るだけでなく、SAVING や家畜の飼育などの努力によって上昇することも可能である。【6 Sugarcane の監督 + 自給的 Farm】⑦は、

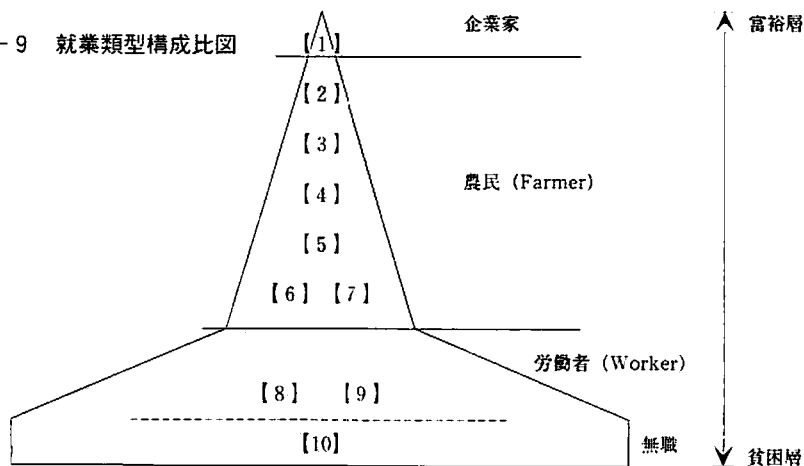
【9】および【7】の亜種である。

【5 自給的 Farm + 家畜 or 漁業】⑤⑩⑭は、現金収入の部門を家畜の飼育や売買もしくは漁業でまかなっており、SAVING も可能である。本調査では農業番号④⑤⑨の農家が家畜による資金の蓄積を行ってきた。また、⑥の農家は挑戦し始めている。豚や鶏を軸とした家畜は、今後の支援でも重要な項目である。

【4 商品的 Farm + 加工（マゲイン）】⑨⑩は、タバコやココナツなどの商品作物も作っており、農地もかなり広い。農業者としては安定しており、マゲインなど新たな農産事業に取り組もうとする意欲も見せている。この層の人が篤農家であったり、現在の農村のリーダー的機能を果たしている。しかし、まだ商品経済に馴れているとは言えず、この人達だけでは農村での新たな事業展開は難しい。もう少し起業家的性格を持つ者が必要である。

【2 商品的 Farm + 販売業】⑧は、【4】の人達の中から、農産物を都市の業者に売るノウハウを持つものであり、Uターン者から出ている。新しい農村の起業者であり、新しいリーダーでもある。彼らを(何)どう育て、(何)どう地域の中で浮き上がらないような仕組みを作るかが今後大きな課題である。しかし【2】と【4】の人達だけでは、農村の振興にとっては十分といえない。彼等

図-9 就業類型構成比図



自身の経営を向上することは出来ても、農村全体に影響を及ぼすするには、まだ力不足である。すなわち、農村で出来た農産物や農村で必要な生活物資を事業として販売したり生産したりする事業家が必要となる。

④. Farming からの起業化

【1 事業経営者 (企業家)】⑬は、農民でも農家でもない。しかし、現在の農村を振興するためには非常に重要な役割を持つ。この事業者が、農村の内部から形成されるか外部から形成されるかは、農村の発展形態にとって非常に重要なことになる。すなわち、内発的発展の要となるものである。従来、農村の産業振興は、外部からの企業誘致や都市部のバイヤーなどによる経済活動が主なものであった。しかしそれでは、農村はいつまでも従属的位置に置かれたままになる。それ故、内部からの事業者の活動が是非必要になる。

この事業者の性格や彼を生み出す社会的背景については、M. Weber らの古典的研究がある。このテーマについては、多分、フィリピンでの研究は十分行われていないと思う。それ故、ここでは、TABOGON の⑬企業家 Mr. Regulo について、少し詳しく見てみたい。まず、Mr. Regulo の経歴であるが、彼は LEYTE 島生まれで、父について CEBU 市にきた。High School 2 年の時、父が経営していたサリサリ・ストア(小規模な街かどの商店)に強盗が入り、父が殺される。彼は学校を中退し、馬車のドライバーになる。しかし、夜は自動車工業の職業訓練学校にかよっていた。叔父の葬式のため TABOGON の CAMBOAN に来た時、当時小学校の先生をしていた現在の奥さんに一目惚れをし、以後毎週 CAMMBOAM に通う。1972年に結婚し、CEBU 市でのサリサリ・ストアと馬車の御者の所得を SAVING して、77年から78年にかけて、自動車の部品を買い、自分でトラックを組み立てた。そのトラックを使って78年からコブラ(ココヤシの実の乾燥したもの)を農村に直接買い付けに行く。買い集めたコブラは、CEBU 市の知り合いの中国人バイヤーに売った。こうして、彼は事業者になっていった。

事業者になってからも、彼はコブラでもうけたお金を銀行に預けるよりもコーンの製粉所を始めることにし、85年に製粉所の経営を開始する。また90年にはコンクリート・ブロックの製造を始める。コブラを買い付けに行く時、空のト

ラックではロスが多いし、農家ではブロックを使う家が増えてきていたので、ブロックの製造を考えたという。

そして、95年には無農薬砂糖（黒砂糖）の精糖所を作っている。多分、日本の生協などがフィリピンの零細砂糖農家を支援している話を聞いて、無農薬砂糖を思いついたと思われる。この様に彼は、完全に企業家の道を駆け登ってきた。彼は、「多角経営は、リスク分散だ」と言う。さらに「商売を行うコツは、①興味を持つこと、②早起き、③計画を立てること、④勤勉、⑤正直であることだ。⑥遊興（酒、カラオケ、ばくち、女）をしないことも大事だ」と言っている。

この様に、極めて合理主義的性格と勤勉さ、さらに積極的な行動主義と計画性は、まさに企業家としての社会的性格であり、彼が成功した大きな要因の一つである。なお、この人間的性格の原型的なものは、【3商業・サービス業＋自給的Farm】④のサリサリ・ストアーの女性にも見られる。ただし、このようなウェーバー的意味での近代資本主義を支える基本的性格は、こちらでは少数者であり、変わり者と評価されることも多いようである。

Ⅲ CEBU 北部農村振興への提言

①、事業振興の担い手問題

本調査は、CEBU 島北部の農家の生活構造と都市移動の社会的現象を踏まえて、農村の内発的発展の可能性を探ることにあつた。特に、事業論をからめながら担い手の資質問題からアプローチしたものである。その結果、最貧層の Sugarcane Woker Only の階層の人々には、現在のところ農村の内発的発展の担い手になることは難しいと判断した。Sugarcane Woker の貧困問題は、重要な基本的課題ではあるがここでは取り扱わない。この問題の解決は、JICA の支援活動の枠を越えるものである。

農地を所有している人達（Farmer）の中には、【1】⑬の企業家のような近代資本主義的な性格や行動とまではいかなくても、自分の人生に（経済的）目的を持ち、そのための努力（SAVING）を行い、都市との繋がりや情報（資本主義的世界の匂い）を少しは判り、自律的に活動できる人も少なからず

いる。この素朴経済人的人達に、担い手としてのターゲットを絞る方がよい。素朴経済人の必要条件はSAVINGであり、十分条件はUターンの性格を持つ者だと思ふ。今、CEBU島北部の農村を一気に変革しレベルアップさせることは無理である。【7】～【2】までの各階層それぞれの層の中で、この素朴経済人を育成・支援し、農民の中に核的人物と各層のモデルを作ることを提案する。すなわち、各階層に属する人達が、自分たちでも達成可能な身近なモデルを持ち、意識変革をさせることである。農民達の事業遂行のための組織化は、その後でも出来る。

②. 経済事業と組織問題

農民達を組織化する場合、その背後に潜む社会的文化的要素は無視できない。フィリピンでは、親族や近隣社会での生活の相互援助は非常に多く、共同体的性格は強いと言われる。でありながら、農村社会で経済的な共同組織や事業組織は非常に出来にくい。依存的共同性は、必ずしも機能的組織にはならない。自律性すなわち個人の責任分担や集団管理者 (Manager) が生まれないからである。日本の農村もかつては、非常に相互扶助の強い村落共同体を形成していた。しかし、日本の農村では、同時に徹底的に機能的集団育成と、その組織運営の訓練をしてきた。稲作という集団機能的な生産システムで、人々が生き抜いてきたからである。稲刈りなどの共同作業や祭りの行事などで、徹底的に若者に組織的活動の訓練をしてきた。ムラの共同作業は、日本の企業活動の原型なのである。^(註3)

日本の様な機能的集団活動がそれほど活発でなかったフィリピンで、近代的な企業組織のシステムを持ち込むと不適應を起こすことになる。すなわち、企業的分業システムは、フィリピンでは支配・監督者 (経営者) と被支配・単純労働者 (被雇用者) に明確に分かれてしまう。日本のように、被雇用者であっても組織の一員として組織目標に向かって、集団的かつ情熱的に邁進することは起こらない。だから、組織的事業活動がなかなか進展しない。

以上のことを踏まえれば、CEBU島北部の農村で協同組合的な事業組織を作ろうとするならば、まず第1に、大きな組織にしないことである。個人の責任範囲と組織の目的や動向の全般を見失わない程度のメンバーがよい。もし、

組織が大きくならざるを得ない場合は、小さな班単位レベルの活動を活発にする必要がある。

以上

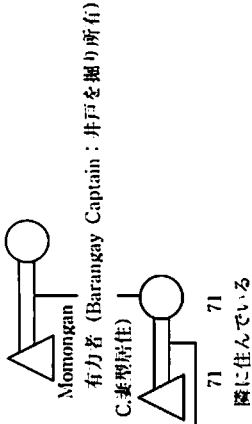
注 釈

- 注1. G I C Aにおける支援体制のあり方は、近年ハードウェアからソフトウェア重視に転換が目指されている。清家政信「政府開発援助へのインプリケーション」1997年などに詳しい。
- 注2. 1ペソ (peso) は、2000年3月は、3.7円だったが、2001年1月で2.2円ぐらいまで安くなっている。
- 注3. 日本の村落社会の機能的な組織的活動については、鈴木栄太郎『日本農村社会学原理』未来社などが参考になる。

図 2-a

4/4 Bogo Barangay Banban, Sitio Banika

調査対象者: Nailon 家族: Farmer(自作)



1. 家族構成と属性 (A. 核家族形態 (8 各同居) B. 子供 9 人 (他出 3 名) 死亡した子供はいない C. 兼務居住)

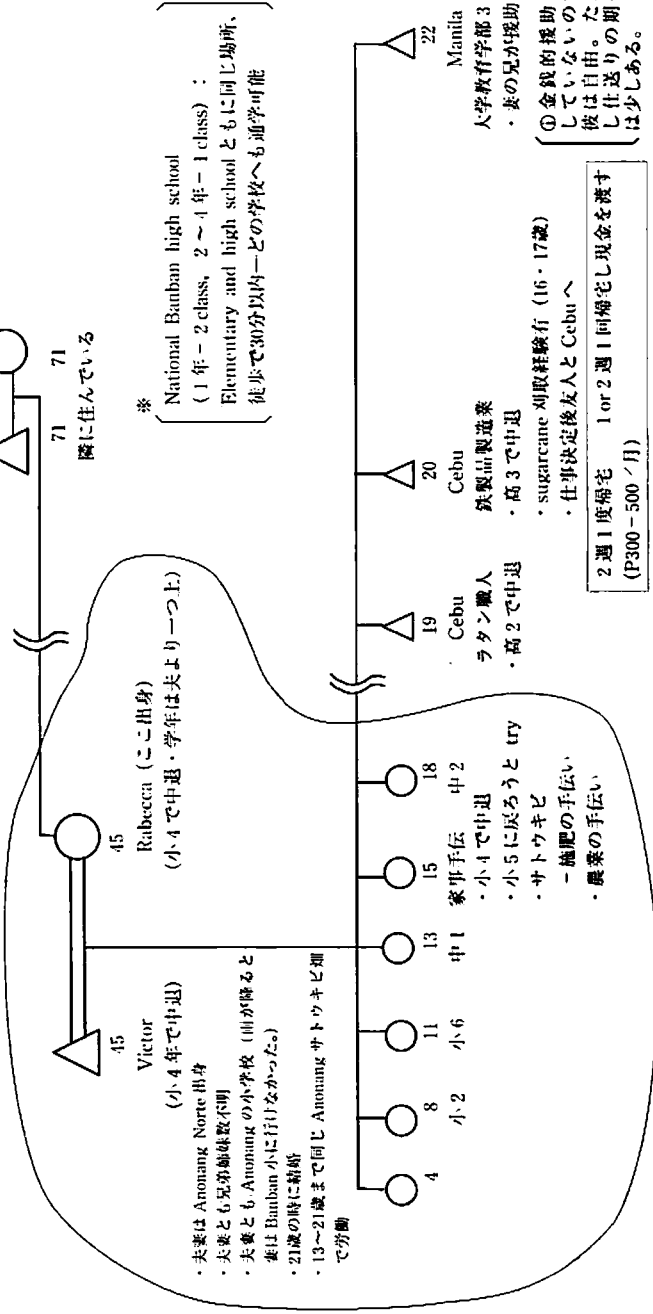


図 2-1b

4/5 Bogo Barangay Banban, Sitio Banika

調査対象者：Talisic 家族：Farmer

1. 家族構成と属性 (A.核家族型 (7名同居) B.子供5人 C.妻方同居)

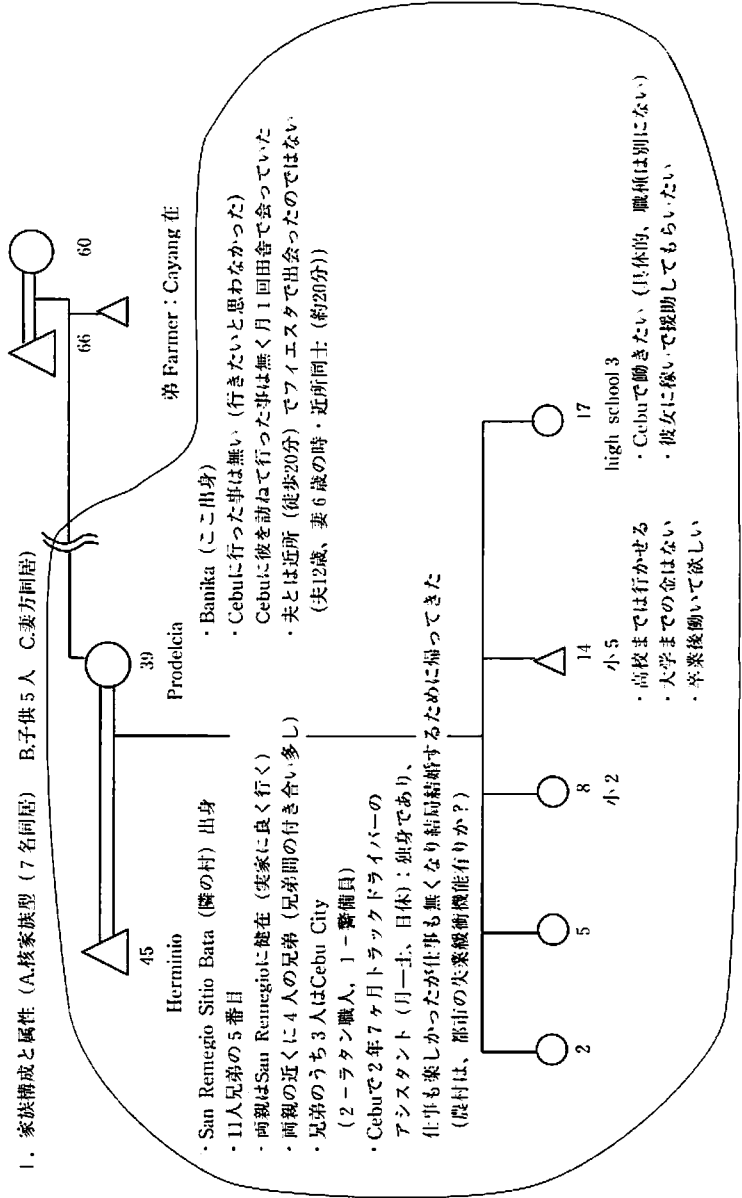


図 2 - C

4 / 5 Bogo Barangay Banban, Sitio Banika

調査対象者: Danilo 家族: Farmer

1. 家族構成と属性 (A:核家族形態 (同居 9名) B:子供 9人 (他出 2人) C:妻方居住)
Uターン (木工所)

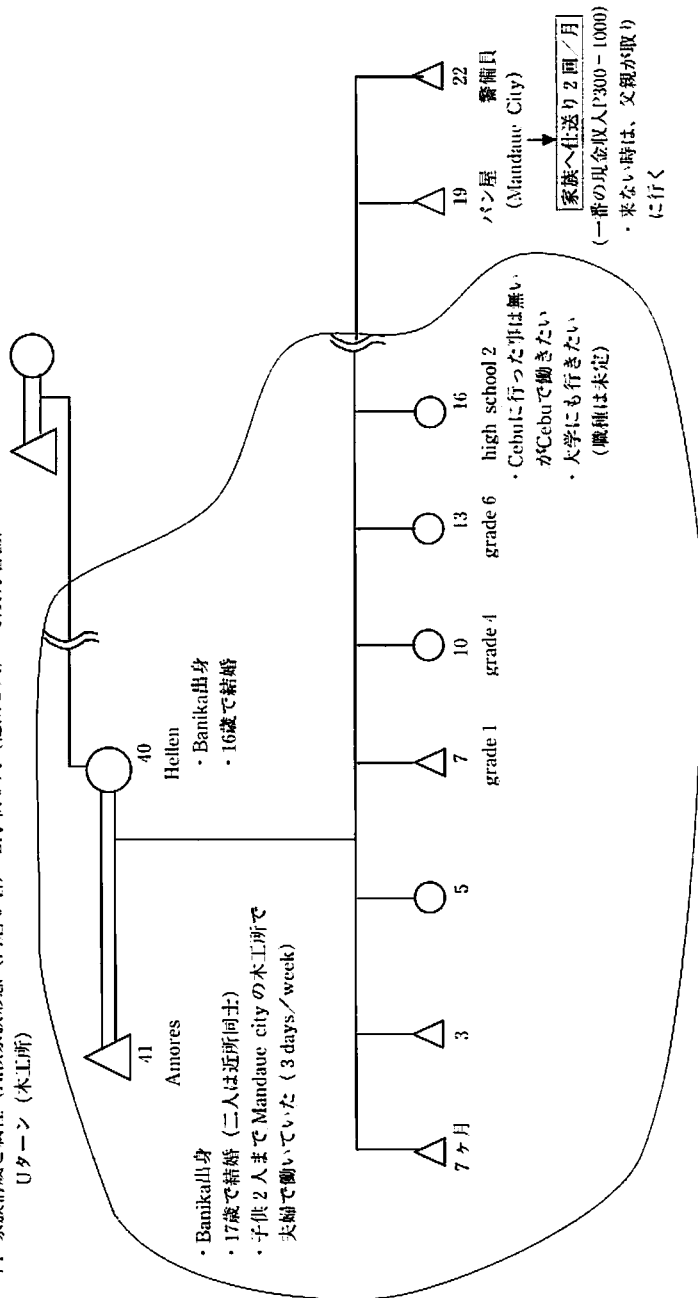


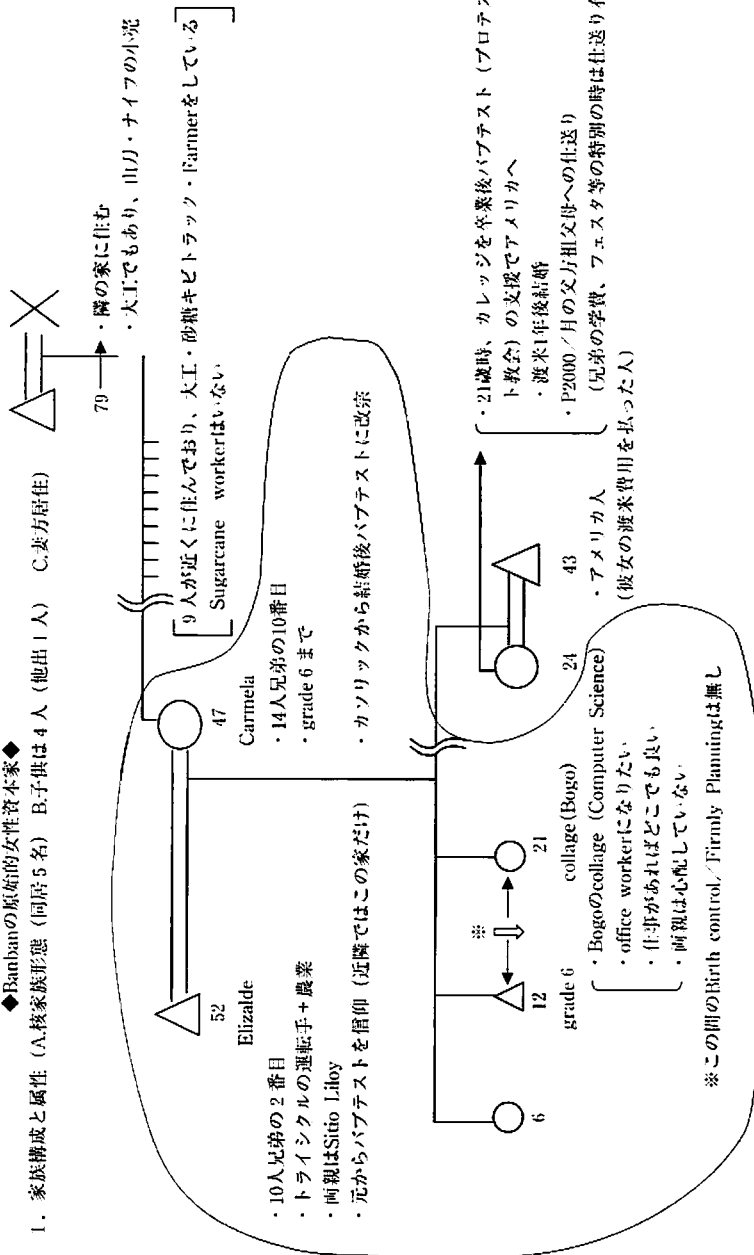
図 2-1d

4/7Bogo Barangay Bamhan, Sitio Proper

調査対象者：Carmela Camay (Camayの意味はsugar) 家族：サリカリストア一経営

◆Bambanの原始的な女性資本家

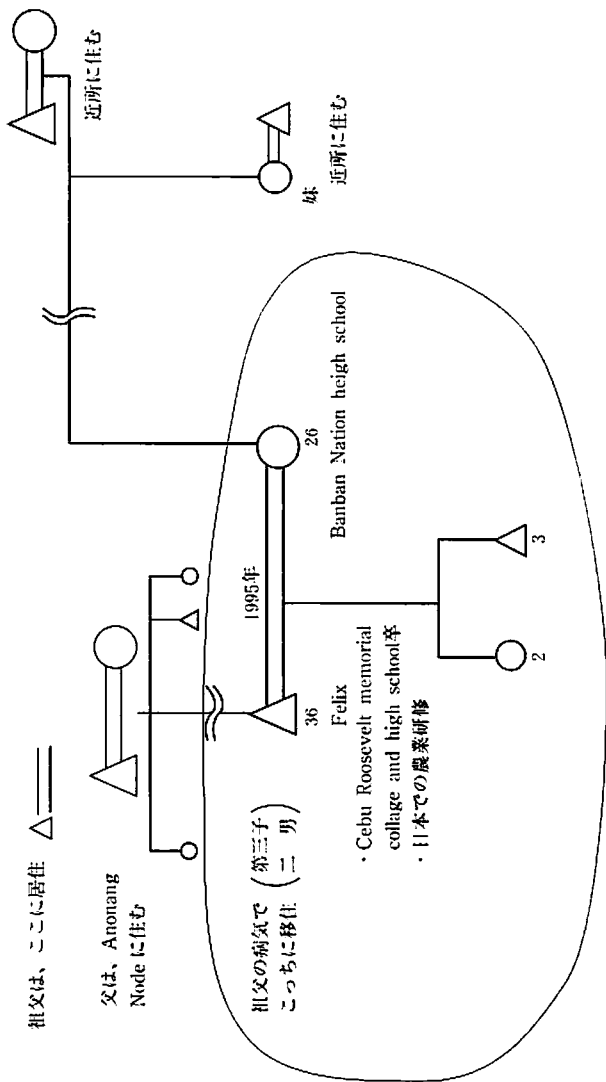
1. 家族構成と属性 (A.核家族形態 (同居5名) B.子供は4人 (他出1人) C.妻方居住)



4./7 Bogo Barangay Banban, Sitio Banika

調査対象者：Banniciloy Felix 家族：Farmer (4H club)

1. 家族構成と属性 (A.核家族 (同居4名) B.子供2人 C.父方隔世相続)



フィリピン・セブ島北部農村の都市化と内発的発展の可能性 (徳野)

図 2-1

4 / 11 Logo, Barangay Bamban, Sitio Sangcogue (典型的)

調査対象者: Donrecillo家族: Sugarcane worker + raise Libestock

1. 家族構成と属性 (A.核家族類型 (5人同居) B.子供11人 C.妻方居住)

